



# IEEE Japan YP News Letter

Vol. 1, March, 2018

Cover Design: Komei Hasegawa

# 目次

**目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2**

**ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3**

**初代 YP Chair よりメッセージ・・・・・・・・ p.4**

**Japan YP Activities・・・・・・・・ p.5**

✧ **関西 YP**

✧ **名古屋 YP**

✧ **東京 YP**

**YP Technical Stories・・・・・・・・ p.9**

**IEEE 役員への突撃インタビュー・・・・・・・・ p.10**

**編集後記・・・・・・・・ p.16**

# ごあいさつ

これからの将来を担う若者達が、より良い世界を築けるように、より平和で幸せな世界を生きられるように、そのお手伝いが出来るよう想いを込めて、Japan YP News Letter を創刊する事となりました。

私は現在 Japan Council の YP Coordinator をしております。大学院の時に先輩に進められて IEEE のイベントに参加して以来、その楽しさに魅了され、かれこれ 8 年程 IEEE とお付き合いさせて頂いております。私にとって魅了されたその「楽しさ」の最たるものが、「人との付き合い」です。自分の専門知識を向上させる為だけではなく、自分の人生を楽しく向上させる為にかけがえのない多くの「仲間」を、この IEEE から頂きました。専門知識を向上させる事がメインの学会において、人生における親友が出来るという事は、実は大変意義がある事だと思っています。なぜなら、基本的に私達の専門知識は社会をより良くする為に存在すると（私は）思っていて、その社会というものは「人」によって成り立っています。だからこそ、人との繋がりを持った上で専門知識を向上させなければ、本当の意味で社会の役に立つものが作れないのではないかとと思っています。IEEE での様々な経験を通して強くそう思うようになりました。今度は少しでもその恩返しが出来ればと思い、自分が培ってきた経験や、これから予定されている様々な情報などを日本の全会員の皆様に共有させて頂き、少しでも皆様の人生にとって有益になるものを提供出来ればと思っています。

Young Professionals (YP) member とは、基本的に学部卒業後 15 年以内の方が対象となっているのですが、各支部において Affinity Group (AG) という組織を立ち上げ、支部承認の団体として、様々な活動をする事が出来ます。現在日本における YPAG は、関西、名古屋、東京の 3 支部にあります。これら AG が様々なイベントを開催し、学生および若手メンバーに対して将来のキャリア構築の手助けをしています。しかし実際には日本には 9 つの支部があり、YPAG がない支部もあります。本 News Letter を通して興味を持って下さった方々が率先して AG を立ち上げてくれる事を願っております。

また、本 News Letter は若手だけではなく産業界、アカデミック、シニアメンバー達と、様々な人に読んで頂きたいと思っています。現在の若者がどう頑張っているか、何を考えているかをご覧になって頂き、その上で皆様にご指導ご鞭撻を下さりましたら幸いです。News Letter のタイトルは YP ですが、社会をより良いものにしていくためには、一部の人の頑張りだけではなかなか良い方向に進まないと思います。若手からシニア、産業界からアカデミックと、世代と分野を超えた人々が繋がって初めて前に進めるものだと思います。本 News Letter をその橋渡しとしてもご活用下されば編集者としてこの上ない幸せです。皆様からのご意見・ご要望・ご感想もお待ちしておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

JC YP Coordinator 西宮康治朗



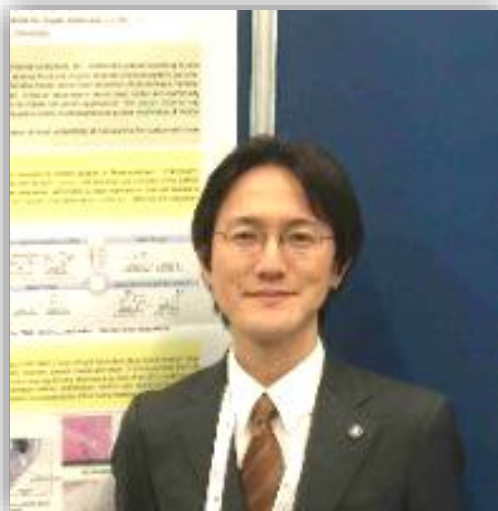
# 初代 YP Chair よりメッセージ

**大越 康晴 (OHGOE, Yasuharu)**

**所属：東京電機大学 理工学部、**

**IEEE Tokyo GOLD (現 YP) Chair**

**2009 – 2012**



2008 年の 11 月に、今の Young Professionals (YP) Affinity Group の前身である Graduate of the Last Decade (GOLD)が東京支部に日本で最初に設立され、早いもので 10 年が経ちました。私はこれまで、縁あって、アジア・太平洋地域 (R10) の若手会員の活性化を図る Regional GOLD Coordinator

として第 1 回 R10 GOLD Congress の開催や、IEEE 本部の MGA Representatives to GOLD として第 1 回 GOLD Summit の開催、そして、これらの経験を基に多くの方々の支援を得て、Tokyo GOLD (現 Tokyo YP) の立ち上げに携わらせて頂きました。

この GOLD (現 YP) の活動の主旨は、“理工系分野に携わる若手”が、それぞれの得意とする専門領域を軸としながら、お互いの交流を通じて、“自身の将来に向けたキャリア構築”を真剣に考え、技術者としての人間性を高めることにあります。実際にこの活動に関わってみると、専門分野の異なる相手から信用を得ることの難しさを身をもって感じると同時に、将来のビジョンを明確に持ち、IEEE の活動を通じて人との交流や出会いを最大限に楽しみ、それを自身のキャリア構築の挑戦の場として活用している多くの人たちの姿を目の当たりにしました。この時、“キャリア構築”とは、自身の専門力を高めることで、専門分野の異なる人から信頼を得ることは勿論ですが、将来を見据えた前向きな姿勢は、常に自分自身の挑戦を“楽しむ”ことに尽きると、改めて実感しました。

日本には現在、東京、名古屋、関西と 3 つの YP Affinity Group があり、“若手技術者のための活動”が、様々な形で自由に、しかも活発に企画されています。より多くの方々に YP の活動にご参加いただき、お互いの専門性の違いや、それぞれの国や地域の多様性を共有しながら、自身の挑戦の場として楽しむこと、そして、キャリア構築として自身の人間性を高めるきっかけとなって欲しいと思います。

大越康晴 (東京電機大学 理工学部)

# Japan YP Activities

現在日本における Young Professionals Affinity Group は、関西、名古屋、東京の3支部にあります。創刊号である本号では、各支部の YP AG の Chair の皆様より、簡単にご紹介と活動のご案内をして頂きます。各支部の YP member であり、まだ Affinity Group には参加していない皆様に、もしもご興味がありましたら、ぜひ各 Chair までお声がけ頂きたいです。記事からも伝わりますが、皆様とても気さくな方々ですので、遠慮なくご連絡を下さりましたら幸いです。

自分の支部には Affinity Group がないという方は、西宮（[Kojiro.Nishimiya.jp@ieee.org](mailto:Kojiro.Nishimiya.jp@ieee.org)）までご連絡下さりましたら、YP Affinity Group の設立支援や参加出来そうなイベントのご紹介をさせていただきます。



## ～ 関西 YP ～

Chair : 和泉慎太郎 ( [shin@cs28.cs.kobe-u.ac.jp](mailto:shin@cs28.cs.kobe-u.ac.jp) )

2017 年から関西 YP で Chair を拝命しております和泉慎太郎（神戸大学）です。関西 YP は 2014 年 10 月 4 日に承認を得て日本で 2 番目の YPAG として設立されました。現在は 11 名の委員で構成されています。

IEEE 関西支部の中では、Membership Development Committee (MDC) 及び Student Activities Committee (SAC) と合同で、IEEE の会員数増加に向けた取り組みを行うジョイントワークショップを年 2 回開催しています。また、関西 WIE AG が主催する IEEE Kansai WIE Symposium を毎年共催しています。このシンポジウムは、工学系と情報系で活躍する女性研究者の活躍を応援し、議論することを目的としています。YP AG と WIE AG は密接に連携しており、両方に所属している委員もいます。Student Branch とも英語プレゼンテーション大会や交流イベントを行っています。東京 YP や名古屋 YP の主催イベントにも参加しており、今後も関西支部からの参加者を積極的に支援するつもりです。

関西 YP の活動に興味を持たれた方は、是非委員としてご参加頂きたく、宜しくお願い致します。企画の持ち込みも大歓迎です。





## ～ 名古屋 YP ～

Chair : 鈴木拓央 ( [takuo.suzuki@ist.aichi-pu.ac.jp](mailto:takuo.suzuki@ist.aichi-pu.ac.jp) )

名古屋 YP で Chair を務めています鈴木拓央（愛知県立大学）です。名古屋 YP は名古屋 Section（愛知、岐阜、三重、静岡、福井、石川、富山）に在住の方が所属できる YP になります。名古屋 YP は 2015 年 12 月に、日本で 3 番目の YP として発足しました。そして、2017 年 11 月現在は 10 名の委員で活動しており、年 2 回のペースでイベントを企画・実施しています。

2015 年は設立後すぐにキックオフイベントを開催し、2016 年は交流イベントとしてビール工場見学を開催しました。このイベントでは、麒麟ビール名古屋工場の若手技術者の方々にビール製造に隠れた高度な技術について講義して頂きました。もちろん、イベント後にはビールで打ち上げを行いました！2017 年は韓国の KAIST を訪問し、国際ワークショップを開催しました。YP では Non-technical な活動も推奨されていますので、このワークショップでは両国における研究生活やキャリアパスの違いについて議論し、相互理解を深めました。ワークショップ後にはキムチ博物館を訪れ、韓国料理についての理解も深めました（笑）

名古屋 YP では、今後も海外との交流を積極的に行っていきますので、ご興味のある方は鈴木拓央 <[takuo.suzuki@ist.aichi-pu.ac.jp](mailto:takuo.suzuki@ist.aichi-pu.ac.jp)> までメールを送って頂けたらと思います。委員自

身が楽しめる  
イベントを企画・実施することをモットーとしていますので、既に何かアイデアを持っている方も歓迎します。ご検討のほど、宜しくお願いします。



図 : Nagoya-Daejeon Exchange Workshop の集合写真

## ～ 東京 YP ～

Chair : 鈴木麻由美 ( [mayumi.suzuki.ov@ieee.org](mailto:mayumi.suzuki.ov@ieee.org) )

東京 YP で Chair を務めています鈴木麻由美（日立製作所）です。東京 YP は東京支部（東京、埼玉、神奈川、千葉、群馬、栃木、茨城、山梨）に在住の方が所属する YP になります。東京 YP は、日本で最初の YP として 2008 年 11 月に発足しました。2017 年 11 月現在は、約 25 名のメンバで活動しており、イベントを年 10 回ほど開催しています。また、2017 年は R10 Young Professionals Award というアジア地区の YP の中で最も優れた活動をしている YP に与えられる賞を受賞しました。2018 年は設立 10 周年となることから、特別な年にできるよう邁進いたします。

東京 YP では、若手技術者、研究者および学生が、新しい気付きやスキル、人脈を得るきっかけの提供を目指しています。より高い効果を得るためには参加者の多様性を高めることが重要であると考え、他の AG や各大学の Student Branch との共催の形態をとっています。2017 年はハッカソン、企業見学会、キャリアに関するエッセイコンテストなど 9 個のイベントを行いました。また、グローバルな活動として、IEEE の海外のメンバが集うイベントへの参加や、海外のメンバが来日した際のおもてなしなども行いました。さらに、イベントによっては、Tokyo Young “Sake” Professionals として、参加者の趣味の拡張と知の深化をはかるために、美味しいお勧めのお酒の差し入れも行っています。

東京 YP の活動は、各メンバがそれぞれの活動意義や目的意識を持って、行っていることが特徴です。設立 10 周年を迎える現在においても、東京 YP メンバによるイベントの企画案から新しいイベントが誕生することもあります。今後も、新しい取り組みを積極的に行っていく予定です。是非みなさま、気軽にご連絡下さい。まずはイベントへの参加やメンバとの交流からのスタート也大歓迎です。



図：キックオフミーティング集合写真



◆ IEEE Tokyo Section Career Day - 僕らの未来予想図 - (December 2, 2017) , Waseda University Nishiwaseda Campus  
- Industrial/Entrepreneurial Workshop "Envisage your future" Supported by IEEE R10 Industry Relations

図：Career Day イベント集合写真



# YP Technical Stories

新進気鋭の YP が手掛けている研究・開発内容や仕事内容を毎号数名ずつ紹介するコーナー。現在の成果のみならず、将来に向けての抱負や夢も含めて、各自が持つ技術、貢献したい世界などについて、若手ならではの視点で科学技術を見つめる記事。

## <Professional List No. 1>

**外田 脩 (TODA, Osamu)**

**所属：株式会社明電舎、ICT 統括本部**

**業務：研究・開発（データ解析）**



### <所属機関>

明電舎は、読者皆様の研究・業務・生活に欠かせない「電気」を生み出す設備・機器を取り扱っている。具体的には、発電所の要となる発電機、受変電設備などの幅広い製品だ。

### <担当業務>

これらの設備は、①数十年間運用され、②トラブル時の経済的損失が深刻であり、③要求性能を常に担保する必要がある。既存のメンテナンスは、経過時間を基準とする Time Based Maintenance が主であった。しかし、情報通信技術の発展にともない、データに基づき保全を実施する Condition Based Maintenance (CBM) への移行が加速している。私は、この CBM を実現する解析技術の開発を担当している。

### <キャリア>

私は学業として信号処理の研究を続けてきた。一般的には、専門を生かして研究機関や IT 企業に属し研究者としてのキャリアを極めるだろう。しかし、私は今の所属先で専門技術を重電領域と融合する技術者としてのキャリアを歩むことに決めた。

### <何故>

キャリアとして技術者を選んだ理由は、“Professional”の一人として技術を社会に還元するためだ。担当するインフラ技術は、数十年後に最終評価を頂くことになる。私は、その長期間、常に安心され喜ばれる技術を開発したい。40年後、私は社会に貢献できるだろうか？「より豊かな未来をひらく」ため新しい技術を創造し、社会へ還元することが、「現在の私」の研究者・技術者としての責務だと考える。

# IEEE 役員への突撃インタビュー

IEEE の役員の方々が普段 YP に対してどう感じているか、そして何を期待しているかをフランクに語って貰うコーナー。創刊号である初回は JC Chair 津田先生、JC IPC Chair 原崎様、JC WIE Chair 矢野様を突撃！！YP Coordinator と皆さまでお洒落なお店で軽く飲みながらフランクに本音を語って貰うコーナー。堅苦しくなく、しかし真剣に、今の YP そして未来の YP について、熱く語って貰います。

## 本日のお客様

津田 俊隆 様 (Japan Council Chair / 2017-2018)

原崎 秀信 様 (Japan Council Industry Promotion Committee Chair / 2017-2018)

矢野 絵美 様 (Japan Council Women in Engineering Chair / 2016-2017)



津田様



原崎様



矢野様



西宮

## 本日のお店

### トキオプラージュ・ルナティック

二子玉川にある隠れ家的セルフサービスフレンチ。気取らず、しかし本格的なフレンチがお手頃価格で楽しめる。2時間飲み放題付きコースで3,400円(2017年11月現在)。料理もしっかり用意され、質も量も申し分ない。そして他にはない特色が、単品での注文では自動券売機で発券してから注文し、自分で取りに行くという、まさにセルフサービスなシステム。



クリスマスを抑えた11月末日、平日の仕事帰りの4人が、IEEEの将来を見据えて Young Professionals について夜な夜な自由気ままに語りあった記録をご紹介します。

\*本コーナーの飲食代は各自自腹で会計をしております

## まずは IEEE のイベントに参加してもらいたい

**矢野**：学会のイベントって企業の若手にはなかなか参加しづらいと思うのですが、会社で今ダイバシティを担当していて、研修的な扱いでやればIEEEのイベントも結構参加しやすくなるというのが分かってきました。トレーニングや若手の育成も兼ねて。仲間も増やせるし企業との繋がりも出来る。

**津田**：それは面白いですね。そのやり方は、会社がお金を出しやすくなると思います。お金だけじゃなくて時間的にも参加しやすくなる。

**西宮**：平日学会で抜けるというのは若手にはなかなか厳しいですもんね。

**津田**：出来るだけ多くの人に一度来てもらって、面白い面白くないか、それを体験してもらわないと。

**原崎**：それで面白くなかったら、どうすればもっと面白くなるかというのも改めて考えないかね。

**津田**：教育をするんですよというのをアピールするのは良いですよ。それと今の時代、楽天とかグーグルとか、他業種の人達にも IEEE に入ってもらった方が良いと思うんですよ。そうじゃないと意識が変わっていかないと思うんです。



Fig. 2 そしてサラダ

**原崎**：そういう動きがあった方が学生や若者にとっても面白いと思うんですよ。色々と違う人達との交流が出来るので。そういう、“新しい刺激”を与えられる組織が価値が高いんだと思います。普通の企業に行っただけでは出会えない人達に出会える。

**矢野**：なんか、IEEE の人達って、皆良い人達なんですよ。

**津田**：皆意識が高いし、その通りですよ。

**西宮**：海外のメンバーも本当に良い人達が多いですよ。

**津田**：学会のマネジメントをやっている人達は、広い視野で物事を見てきているから、本当に良く考えている人が多いんですよ。

**矢野**：日本の先生もそうだし、R10 の役員の方々も本当にそうだし、人の事をよく考えてホスピタリティに溢れていると思うんです。

**西宮**：やっぱりそういう交流も実際に体験して頂いて、少しでも多くの方に IEEE の良いところを知って欲しいですよ。

## 理系も文系も、異分野交流が大事

**原崎**：たまにいますけど、展示会とかで広報の子達で、英語も出来て、かつ技術的な内容も分かる子っていうのは本当にすごいと思うんですよ。

**矢野**：その逆もあって、理系の人ももっと広報的な事が出来るようになった方が良いと思うんですよ。

**津田**：そこが理系の問題なんだけど、自分の知っている内容がと



Fig. 1 ワインがよく合う前菜達



Fig. 3 自由気ままな飲み放題





Fig. 4 あさりとパンが極めて合う

ても難しいという事を理解しないで話しをしてしまうんですよね。結局理系の人に求めたいのは、もっと人間に興味を持って欲しいという事なんですよ。誰の為にやっているんですか？という事なんですよ。人間のためにやっている活動なはずだから。

**西宮**：IEEE で言うと TOWERS がまさにそうで、分野を完全に横断して理系も文系も混ぜて交流をしているんですよね。

**津田**：それは素晴らしいですね。

### 役割を持って様々な経験をして欲しい。そしてその経験を世代交代させていく

**津田**：学会で今ちょっと足りないなと思うのが、色んな事を経験させていくという事だと思っていて、IEEE もまさにそうなんだと思う。色んな場所で色んな経験をして貰おうという姿勢を作らないといけないと感じています。

**原崎**：R10 の Congress では、アジアの、中々普通では行けないところに行けるという機会とかもあって、支部長クラスの方々も本当に最高だったと言っている

ので、そういう経験は確かにもっと多くの若者に与えるべきですよ。

**矢野**：私は結構行けていて、インドに3回も行けたんですが、それがとても良い経験になっています。

**西宮**：インドにも仲間が沢山いるからまた行きやすくなりますよね。

**矢野**：そうですね、それが大切ですよ。やっぱりそういう意味でも沢山交流をして仲間を作るというのは大切ですね。これからはもっと後輩の皆にもそういう経験をして欲しいと思います。

**原崎**：そういう機会がある人が限られてしまっているというのが問題なんですよ。

**津田**：それと、何かのイベントが在る時には、ただ参加するのではなくて、何かしらの役割を与えてあげることが重要なんですよ。

**原崎**：そういう点だと、ファシリテータはとても良いと思います。イベントの講師役として参加するなら会社としても出しやすいし。

やっぱり、意図的に仕事を振らないとなかなか後進が育っていかないんですよ。自分の跡継ぎを意図的に育ててきたかどうかというのが重要で。しかも1人だけ育てていても広がりがないから1対3とか、どれだけ裾野を広げられたかというのが評価関数になるんですよ。

**津田**：皆にお願いしたい事は、自分の周りに影響を与えて欲しいという事です。YP の皆は将来リーダーになる素質のある人たちで、自分の中で閉じていたら何もならないから、どれだけ周りの人に影響を与えて活動を大きくしていくかという事を早く覚えて欲しいと思います。

**矢野**：確かに、自分がやって良かった事を周りの人に、これ良かったよ～って伝えてあげるのが重要だと思います

**西宮**：そういう流れが全ての世代であれば、組織は健全に育っていくんでしょうね。

**原崎**：そうですね、YP でも特にそうして欲しいですね。自分が貰ったものは後進に譲り、自分はさらに上に行くという流れで。そういう拡大再



Fig. 5 牛のほほ肉！



Fig. 6 コース最後はパスタ

生産がとても重要になると思います。学生に会員である事の魅力を見せるのも重要ですよ。例えば IEEE の会員であれば就職に役に立つとか、将来幸せになります、というような道筋を立ててあげるとか。

**西宮:**それを僕たち YP が学生の為に考えてあげないといけないところですね。魅力を持たせてあげないといけないというのが僕たちの役目ですよ。

### 「もしお二人が今 YP 世代だとしたら何をしたいですか??」

**津田:**将来をどう変えたいかという話と、自分が今 30 代なら何をしたいかという 2 点があります。

自分がやりたい事としては、もっと色々な世界で働きたい。出張ではなく海外の現地に行って働くという事。広く世界に広がっていかないとダメだなあというのが今とても良く分かるようになったからです。

将来変えたい世界に関しては、今まで自分は ICT の分野で貢献してきて、社会に利便性というものを与えられてきたと思うのですが、今のところ、人の温かみというものが希薄な感じがしているのです。だから、ICT において人の温かみが感じられるような環境を作ってあげたいというのが願いですね。

**西宮:**そうですね、便利と幸せは別なんですよ。便利になって空いた時間を使ってまた便利になるための仕事をしてしまうので、あくせくしてしまうんですよ。

**津田:**国や地域によって人の生活の速度も全然違うんですよ。地方とか、海外でも東欧とか、本当にゆっくりと時間が進んで、人の生活がそこにあるんですよ。

**原崎:**夜遅くまでゆっくり飲むし、それでいて朝も遅いですしね(笑)

**西宮:**でもそれがいいですよ。その方が人の幸せに繋がる気がします。

**津田:**そこら辺も含めて、ICT の分野でこれからどういう方向に行くかを、人の幸せをベースにしっかりと考えないといけないですね。ただまあ、本当に自分が 30 代だったら、そんな事は考えずにひたすら進むだけかもしれませんがね(笑)

**矢野:**私は家ではお米は土鍋で炊いて、木のおひつに入れています(笑)手間暇掛かるけど、味もいいし、温かみがあります。

**西宮:**やっぱり、便利だけじゃない世界がありますよね。便利は勿論必要ですが、全てを便利にしてしまうのはちょっと方向性がずれてしまいますね。

**原崎:**私は 30 代の時はアメリカに行っていたんですよ。あの頃は皆世界を見ていましたね。ネットもまだそこまで普及していなかったし。マスターの時は 35 日間アメリカを放浪していました。それが今でもとても良い経験になっています。でも今はそれなかなか出来ない世の中になっていますがね。それと、一番困った事は、妻のキャリアをターミネートするという事でした。一回妻の仕事を辞めさせてしまったという気持ちがとても強いで



Fig. 7 コースの後の追加デザート





Fig. 8 デザートと  
共に追加チーズ

すね。今はフルタイムで働いてくれています。やっぱりそれは大きな事でしたね。私の知り合いの友人は、夫婦合わせて何が最適かという事を考えるのが大事だと言っていました。例えば妻がある場所で仕事を見つけたとして、それが遠方である場合、夫は、おれはどこでも仕事ができるからという事で平気で仕事を辞めて妻に付いていく。そうする事で夫婦が共に最適な場所で働けるように共同すると。この考えが本当に凄いなと思って、自分が妻に仕事を辞めさせたという想いが余計引っかかるようになってしまいました。でも、これからの世界ではそういう想いを持っている人たちが真にパートナーを幸せにしていけるのではないかと思います。

**津田**：でも今の時代、枠があるのに海外に行く若者も減ってしまっていますよね。

**原崎**：そうそう。それはありますよね。だからこそ IEEE が率先して若者を海外に行かせる経験を積ませるのも大事ですよ。

**矢野**：海外に行くのもただ行かせるだけでなく、やっぱり役割を持たせる事で当事者意識を持って貰うのが有効な気がしますね。

**津田**：最初は戸惑っている人でも、実は行ってしまうと意外と何でも出来ちゃうんですよ。だからやっぱり、まずは何とかして周りを巻き込む事が大切ですね。

### 最後に、「若さ」って、何ですか？ YP とは？

**津田**：まず、心理的に若いかどうかというのもあるけど、一番重要なのは組織的に動く自由度がどのくらいありますか？という部分だと思います。例えばマネージャーとかになると、IEEE の活動でも比較的自由に出張だって出来るんですよ。でも YP の場合は、それがやっぱりなかなか難しい。特に入社したての新入社員とか。だからこそ、IEEE は YP という組織を作って、彼らに向けた教育プログラムを作るといのが、YP の意義でもあり、若者の育成に貢献しているといのが、現状だと思います。あと、YP の人たちの特性としては、「冒険が出来る」という事だと思います。年を取ると家族の事なども考えてなかなかリスクを取れなくなる。

**西宮**：では、冒険度が凄い高いシニアはやっぱり YP なんですね。

**原崎**：それだったら、私も今でも YP ですね(笑)

**矢野**：以前、元 President のロベルトと話して聞いていた事ですが、YP が長すぎるのも問題で、ある程度年齢を取ったらもっと専門的な分野で引っ張るリーダーになって欲しい、いつまでも若手若手と言われていたのではなく、もっと先に進んで欲しいという意見もある、という事だそうで、確かにそれも一理あるなと思いました。

**西宮**：確かにそれはありますよね。我々もいつまでも YP に居座るより後進に引き継いでいくことも重要ですね。

### 原崎さん、最後に若者へメッセージを下さい！

**原崎**：経験値が足りない！！ **西宮**：どうすればいいですか？



Fig. 9 とどめの追加ステ  
ーキフォアグラのせ



**原崎**：何かの役職に付いて下さい！！ **西宮**：どうすれば役職に就けますか？

**原崎**：IEEE の役職に付きたいというのを会社なり大学なりに平気で言えるような状態にならないといけないですね。でも、なかなか今の社会はそうはなっていませんよね。それを企業の目標にしていないんですよね。グローバルに戦える人材の育成に目が向いていない。それを変えないといけないですねえ。

**西宮**：それはどうすればいいですかね？

**原崎**：会社に、このままだとこれから人材を取れなくなっていくんじゃないかという意識を持たせるしかないですかねえ。

**西宮**：なかなか難しいですね。でもとりあえず、若者はやっぱり率先して何かしらの役職に付くのは大事ですよね。ありがとうございました。



まだまだ語りつくせないほど話題には溢れていたけれど、明日も仕事。惜しみつつも帰宅の路に着く。街は今、クリスマス真っ盛り。駅前にはディズニーとコラボしている大きなクリスマスツリーが輝いていた。ほろ酔いメンバーが千鳥足で写真を撮りつつ、最後の時間を楽しむ。また今後もIEEE を盛り上げるために色々楽しい策を練るメンバーであった・・・

*Fin*



## 編集後記

科学を突き詰める人々の中には、自分は一人孤独に研究を進めている、と考えている人もいるかもしれませんが。しかし実際には、研究とは過去からの積み重ねであり、例えば一人孤独に研究をすると言っても、必ず過去の偉人たちが積み重ねてきた結果を記す教科書や参考書などを手に取って勉強してきたはずです。この時点ですでに、「人類の知恵と知識のマラソン」に参加していると思うのです。自分一人で一から積み上げるのではなく、昔の人達からバトンを受け取って、一步でも前に進んで、次の世代にバトンを託すのが、科学の進歩というものだと思います。つまり、科学を進めるという事は決して孤独な事ではなく、沢山の人の想いを受け継いで行う、世代を超えたチームプレーだと思うのです。そう考えてみると、案外孤独ではないなと感じます。私自身、何か新しい原理や法則を教科書などから学んだ時、昔の人達の知識をお借りしたような気持ちになり、ある種の交流をしたような温かい気持ちになります。さらに、現在の IEEE の中では、分野を超えた多くの繋がりが沢山あります。その中でも Young Professionals という組織は、分野の垣根が全くなく、志だけ共にする者が集まる団体であり、同世代における沢山の仲間が出来る、またとない機会であると感じています。世代を超えたチームプレーをより効率の良いものにするために、同世代におけるチームプレーも存分にこなすことで、より多くの人との繋がりを持った上で研究に望めるのではないかと考えています。こうする事で、自分の幸せも確保した上で研究が出来るため、その内容も平和で幸せに基づいたものになっていくと思うのです。科学は、ただ技術を発展させれば良いというものでもなく、人類と世界が平和になれるような技術を発展させていく事が重要であると感じています。本 News Letter が、少しでもそのための一助になればと思っています。

今回は創刊号という事もあり、編集においてまだまだ至らない部分が多くありましたが、次号より、益々皆さまのお役に立てる、かつ面白い記事を上手くまとめていけるよう誠心誠意努力していきたいと思っていますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。本 News Letter に関してご意見・ご要望などございましたら、西宮（[kojiro.nishimiya.jp@ieee.org](mailto:kojiro.nishimiya.jp@ieee.org)）までお気軽にご連絡下さい。また、Affinity Group に参加したい、自分の支部に Affinity Group がないけど何かしたい、という方もお気軽にご連絡下さい。ご相談させて頂きたいと思います。それでは、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2018 年が皆さまにとってより良い年になりますように。

JC YP Coordinator 西宮康治朗